

東久留米市立第三小学校 第一学年

| 教科 | 児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点 | 具体的な授業改善策 | 評価・検証方法、目標値 評価（◎、○、●） |
|-----------------|---|---|---|
| 国語 | ・促音や拗音、長音を正確に書くことが難しい児童がいる。 | ・視覚化、動作化を取り入れながら、繰り返し学習する時間を確保する。 | ◎8割以上の児童が正しく表記できるようにする。（ノート、ワークシート） |
| | ・助詞（「は」「を」「へ」）を正しく表記し、文を書くことが難しい児童がいる。 | ・国語の授業時間や三小日記を活用しながら、文を書く機会を多く設定する。 | ◎9割程度の児童が正しく表記できるようにする。（ノート、ワークシート） |
| 算数 | ・10までの数のたし算とひき算の計算が正確にできない児童がいる。 | ・ブロックを操作することで、視覚的に理解できるようにする。 ・毎日の家庭学習で計算カードを繰り返し行い、定着を図る。 | ◎9割以上の児童が正確に計算できるようにする。（ノート、ワークシート） |
| | ・文章問題において、題意を的確に読み取り、正しく立式することができない児童がいる。 | ・具体物や図を活用しながら、情報を整理して問題を解いていく。 ・文章問題では、十分に考える時間を設ける。 | ◎8割以上の児童が正しく解答できるようにする。（ノート、ワークシート） |
| 生活 | ・身近な自然や社会との関わりについて気付いたり表現したりする力が弱い。 | ・活動のねらいを明確にし、気付いたことを全体で話し合う場を設定する。 | ◎8割以上の児童が、気付いたことを発言したりカードに書いたりすることができるようにする。（学習カード、発言） |
| 音楽 | ・鍵盤ハーモニカの技能については個人差が大きい。 | ・鍵盤の拡大図を活用したり、鍵盤に印を付けたりして取り組ませる。 | ◎授業での様子や定着度を個別にチェックして見取る。ドからソまでの音を使った簡単な曲を全員が弾けるようにする。（演奏の様子） |
| 図画工作 | ・はさみなどの用具の扱い方や慣れについては、個人差が大きい。 | ・動画等を有効に活用しながら指導し、段階的に繰り返し取り組めるように題材や活動を工夫する。 | ◎8割以上の児童が基本的な用具の扱いに十分慣れるようにする。（作品、活動中の様子） |
| | ・自分なりに想像力を働かせて表現しようとするのが苦手な児童がいる。 | ・制作前にいろいろな資料を見せ、表現方法や工夫について話し合わせたり、試作してみたりする場 | ◎9割以上の児童が自分なりに工夫したり、表現したりできるようにする。（作品、活動中の様子） |
| 体育 | ・体を支持する腕の力や体のバランスをとって動く力が弱い児童が見られる。 | ・スモールステップで段階的に指導するとともに、運動する心地よさを味わうことができるように活動を工夫する。 | ◎8割程度の児童が、固定施設での登り下りや懸垂移行がスムーズにできるようにする。（活動中の様子） |
| 科特別 道徳 徳教 | ・道徳的諸価値についての理解はできるが、多面的、多角的に考える力が弱い児童が見られる。 | ・発問を工夫し、多面的・多角的に考えたり、実践を振り返ったりする学習活動を設定する。 | ◎自分の考えを表現できる児童が8割以上になるようにする。（道徳ノート・発言） |

東久留米市立第三小学校 第二学年

| 教科 | 児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点 | 具体的な授業改善策 | 評価・検証方法、目標値 評価（◎、○、●） |
|----------------------------|---|---|---|
| 国語 | ・漢字を正確に読み書きすることや日常的に使用することができない児童がいる。 | ・新出漢字の指導は、1日に2文字ずつ行い、毎日の家庭学習で練習を積み重ねる。 ・文章を書く活動の際に既習漢字を正しく使っているか点検する時間を確保する。 | ◎8割以上の児童が、漢字小テストで80点以上を取れるようにする。（漢字練習帳、テスト） ◎8割程度の児童が既習漢字を使用して文章が書けるようにする。（ノート、ワークシート） |
| | ・構成に気を付けて文章を書く力が弱い。 | ・「書くこと」の指導を充実させ、三小日記等を活用し、「はじめ」「なか」「おわり」の構成を意識させる。 | ○8割程度の児童が、「はじめ」「なか」「おわり」の構成を意識して文章を書けるようにする。（ノート、三小日記） |
| 算数 | ・加法、減法の計算を確実にできていない児童が多い。 | ・計算カードを毎日の家庭学習で行い、基礎的な計算を繰り返し解く。 ・具体物や図を積極的に活用する。 | ◎8割以上の児童が、正しく計算することができる。（ノート、ドリル、テスト） |
| 生活 | ・身近な自然や地域との関わりについて、継続的に関心をもって取り組むことに個人差が大きい。 | ・単元を見通した学習の計画を立てるとともに、体験的な活動の時間を設定することで、身近な自然と地域との関わりについて継続的に学習していく意欲を高める。 | ◎8割以上の児童が、身近な自然や地域との関わりについて、継続的に関心をもつことができるようにする。（活動の様子、学習カード） |
| 音楽 | ・鍵盤ハーモニカ（電子キーボード）を正しい指使いで滑らかに演奏することについては、個人差が大きい。 | ・鍵盤の拡大図を活用し、個別指導をしながら取り組む。 | ◎授業での様子や定着度を個別にチェックして見取る。8割程度の児童が正しい指使いで弾けるようにする。（演奏の様子） |
| 図 作 画 工 | ・想像力を膨らませて、自分なりの工夫をして表現することを苦手とする児童がいる。 | ・制作前に資料やワークシートを活用したり、表現方法や工夫について話し合う時間を設定したりする。 | ◎8割程度の児童が、自分なりの工夫や想像力を膨らませて表現できるようにする。（ワークシート、作品） |
| 体育 | ・学習の決まりを守ったり、誰とでも仲良く運動したりすることが苦手な児童がいる。 | ・体育の学習におけるきまりを視覚化したり、正しい行動を認めたりすることで学習への意欲と規範意識を高める。 | ○9割以上の児童が、意欲をもって活動に取り組む、誰とでも仲良く運動することができるようにする。（活動の様子、振り返りカード） |
| | ・体を支持する腕の力が弱い児童が見られる。 | ・鉄棒遊びの学習や、雲梯・登り棒などの固定遊具遊びの学習において腕支持の動きを意識した活動を設定する。 | ◎8割程度の児童が、固定施設での登り下りや懸垂移行がスムーズにできるようにする。（活動中の様子） |
| 科 特 別 道 徳 教 | ・友達の意見を聞いて受け入れたり、物事を多面的、多角的に考えたりする力が弱い児童が見られる。 | ・様々な意見が出るような、発問や展開を設定した授業づくりを意識して行っていく。 ・お互いの考えを聞き、深めたり振り返ったりできる時間を確保する。 | ○8割程度の児童が、友達の意見を聞いて受け入れたり、様々な角度から物事を考えたりすることができるようにする。（ワークシート、発言） |

東久留米市立第三小学校 第三学年

| 教科 | 児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点 | 具体的な授業改善策 | 評価・検証方法、目標値 評価(◎、○、●) |
|-----------------------------|--|---|--|
| 国語 | <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを詳しく書き表すための、文の組み立てや語彙に対する理解が不足しているため、書くことへの苦手意識をもっている児童がいる。 促音や拗音をまだ正しく書けない児童が各学級に一定数いる。 | <ul style="list-style-type: none"> 文法の学習や説明文の学習を基に、様々な教科に関連付けて、自分の考えを書き表す機会を設定する。よい表現方法をモデルとして提示したり、個別指導の充実を図り、書いて伝えることへの学習意欲を高める。 三小日記などの自分の考えを書く機会を週に1・2回程度作り、正しく直す機会を設け、指導する。 | <ul style="list-style-type: none"> ◎8割以上の児童が自分の考えをすずんで書き表そうとしている。(児童の様子、ノートの分析) ◎「はじめ—中—おわり」などの基本的な文の組み立てを理解して、書くことができている。(児童の作品、ノートの分析) ○9割の児童が正しく書けるようにする。(児童の作品) |
| 社会 | <ul style="list-style-type: none"> 表や地図などの資料から大切な所を読み取る力を付ける。 気付いたことや自分の考えを記述する力を付ける。 | <ul style="list-style-type: none"> 地図や表、グラフなどの資料を見る機会を多く設定する。地図や表、グラフなどの資料からどのようなことを読み取るのかを明確にし、印やメモをする活動を多く取り入れる。 ノートの活用や交流だけでなく、事実と自分の考えを分けるなどの工夫をした新聞作り等に取り組みさせる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○7割以上の児童が正しく読み取れるようにする。(ワークテスト、ノート) ○7割の児童が課題に合った自分の考えを自分なりの表現で書けるようにする。(ノート・新聞など・発言) |
| 算数 | <ul style="list-style-type: none"> 文章問題において題意を的確に読み取りすることが苦手な児童がいる。 時刻や時間を求めることが苦手な児童がいる。 | <ul style="list-style-type: none"> 問題文に印を付けて、問題の構造が分るようにしたり、場面を図に表したり、簡単な数字に置き換えて立式について考えたりできるようにする。 模型時計を動かしたり、時計の文字盤の自盛りを数直線表示に表したりして考えさせる。 日常生活の中で意識的に時刻と時間を考えさせる時間を作る。 | <ul style="list-style-type: none"> ◎8割以上の児童が題意を的確に読み取りできるようにする。(ワークテスト・ノート・プリント) ◎8割の児童が時刻や時間を求めることができるようにする。(ワークテスト・ノート・計算ドリル・発言) |
| 理科 | <ul style="list-style-type: none"> 記録した実験や観察の結果から、自分の考えをもつことが苦手な児童がいる。 課題に対して、感覚的に解決をしようとしている児童がみられる。 | <ul style="list-style-type: none"> 表や図を用いて結果を分かりやすくまとめるられるように指導したり、自分の考えを書き表す時間を設定したりして、個別指導の充実を図る。また、考えた意見を交流することを通して、考えを深めさせる。 課題に対して、生活経験を基に予想を立てるとともに、実験や観察の結果から、予想と結果を比較することを通して、課題の解決を行えるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ◎8割の児童が課題に合った自分の考えを自分なりの表現で書けるようにする。(ノート・ワークシート・テスト) ◎与えた視点を基に、8割の児童が実験や観察の結果を比較しながら気付きを書けるようにする。(ノート、実験・観察の記録) |
| 音楽 | <ul style="list-style-type: none"> 拍を感じながらリズムに乗って歌ったり演奏したりすることが難しい児童がいる。 | <ul style="list-style-type: none"> 常時活動としてリズム譜に取り組みせたり、友達と演奏を合わせたりすることで、拍を意識させるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ◎9割以上の児童が、拍を意識してリズムに乗れるようにする。(演奏の聴取・活動中の様子) |
| 図画工作 | <ul style="list-style-type: none"> 手間のかかることでも意欲的に取り組んでいる。 アイデアを出し合ったり、役割分担をして表現活動したりする時に、話し合いがうまくできなかったり、活動を進められなかったりする。準備、表現、片付けまでの一連の流れの中で、自分のやりたいことだけやる児童がいる。 | <ul style="list-style-type: none"> 協力して準備、表現、片付けをする機会を積極的に設け、自分たちで考えて活動が進められるようにさせる。 | <ul style="list-style-type: none"> ◎9割の児童が根気強く制作活動に取り組み、友達と協力して活動することができるようにする。(活動中の様子) |
| 体育 | <ul style="list-style-type: none"> 器械運動において体を支持する腕の力が弱く、前転や後転においても体を支えることが苦手な児童が一定数いる。 友達のよい動きを見て、その動きを試したり友達に助言したりする児童が少ない。 | <ul style="list-style-type: none"> 猫ちゃん体操やかえるの足打ちなどの腕で体を支える力や体幹の力を付ける。 よい動きをモデルとして提示したり、個別指導の充実を図ったりして、活動に対する意欲を高める。 | <ul style="list-style-type: none"> ○自分の体を支える経験を十分に積み、8割以上の児童が腕支持のコツを掴むことができるようにする。(活動中の様子・ワークシート) ○8割の児童が意見交流を通して、自分の動きを振り返り、改善できるようにする。(活動中の様子・ワークシート) |
| 徳 特別の 教科 道 | <ul style="list-style-type: none"> 一方向的な見方で考えを深めることはできるが、価値に対する考えを多角的に深められるような視点をもていない児童がいる。 | <ul style="list-style-type: none"> 価値やテーマに関する発問につながるような授業展開を工夫する。 教材の登場人物の判断や心情を、自分との関わりにおいて、複数の視点で多角的に考えられるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ◎8割以上の児童が、一つの視点からだけでなく、複数の視点から話し合い、考え、価値についての概念を広げられるようにする。(ワークシート・発言) |
| 外国語 活動 | <ul style="list-style-type: none"> 友達と交流し、すずんで外国語を用いようとしている。しかし、はっきりと言うことができる自信をもてない児童がいる。 | <ul style="list-style-type: none"> 十分に「聞く」活動を設定し、慣れ親しむ経験を積む。全体で練習する機会を多く設定したり、A L Tに伝える機会を設けて、「しっかりと伝わった」という自信をもたせるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ◎8割の児童が簡単な質問をしたり、質問に答えたりできるようにする。(振り返りカード、活動の様子) |
| 時 間的 な 学 習 の | <ul style="list-style-type: none"> 意欲的に学習に取り組み、調べたい問いをつくりタブレット端末などを用いて調べることができるようになってきた。 調べたいことを中心に捉え、キーワードを選びだすことができるようにしたい。 | <ul style="list-style-type: none"> 単元前半にて、調べるテーマについて基本的な情報を十分に児童と共有できるように構成にすることで、個々の調べ学習の基礎知識を身に付けさせる。 問い作りの学習を行い、インターネットのキーワード検索で練習し、情報にたどり着く経験を十分に積みさせる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○写真や映像などの視覚情報を活用した授業導入を実施する。ワークシートを活用し、全児童が自分の調べたい問いを作ることができる。(学習カード) ◎8割以上の児童が、自分でキーワードを入力して検索できるようにする。(活動の様子、学習カード) |

東久留米市立第三小学校 第四学年

| 教科 | 児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点 | 具体的な授業改善策 | 評価・検証方法、目標値 評価(◎、○、●) |
|----------------------------------|---|--|---|
| 国語 | <ul style="list-style-type: none"> 自分の思いや意見を書いたり話したりして表現することに、苦手意識のある児童がいて、双方向の話し合いになりにくい。 読書が好きな児童は多いが、趣向に偏りがみられ、難しい文章に挑戦したり文章に向き合い丁寧に読み取ったりできない。 | <ul style="list-style-type: none"> ノートやワークシートに自分の考えや振り返りを書く時間を確保し、机間指導やコメントで励ましやアドバイスを積み重ね、書くことに自信をもたせる。 小グループの話し合いや学級会を計画的に取り入れ、全員発言を日常化し、慣れさせる。 読む力を育てるために、読書活動の充実を図る。学校図書館の読書授業の他、学校司書とも連携し、読むことの楽しさ、知ることの面白さを体感させる。 | <ul style="list-style-type: none"> 授業後の記述で、期待するB評価基準の児童7割以上にする。(ノート、ワークシート) 自分の思いや意見を話して伝えることに苦手意識がある児童を2割以下にする。(グループ活動等の観察) 9割以上の児童が年間10冊以上借り、本の質が高まっている。(貸し出し記録、読書記録) 読むことに関するテストで8割以上の児童が正しく答えられる。(ワークテスト) |
| 社会 | <ul style="list-style-type: none"> 調べたことを白地図や図表、文などにまとめたり読み取ったりすることが苦手な児童がいる。 身の回りの地域社会や実生活と結び付けて考える学習に難しさを感じている児童がいる。 | <ul style="list-style-type: none"> 様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能を何度も繰り返し使うことによつ 出前授業などの体験活動を生かして児童が身近なものとして捉えられるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> 8割の児童が課題に合った自分の考えを自分なりの表現で書けるようにする。(ノート・新聞など・発言) 8割以上の児童が題意を的確に読み取りできるようにする。(ワークテスト・ノート・プリント) |
| 算数 | <ul style="list-style-type: none"> 既習の定着の個人差が大きい。 (「数と計算」の領域や「図形」の領域) | <ul style="list-style-type: none"> スキルやプリントなどを使い、繰り返し学習することにより、既習事項の定着を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> 8割以上の児童が既習の学習内容を理解し、定着が見られる。(ワークテスト・ノート・スキル・発言) |
| 理科 | <ul style="list-style-type: none"> 観察や実験に意欲的に取り組むが、予想を立てる際に根拠が書けない児童がいる。 | <ul style="list-style-type: none"> これまでの学習や生活経験を思い出す声掛けをし、それを根拠にするよう指導する。よく書けている児童のノートをお手本として紹介したり、慣れるまでは話型を示したりする。 | <ul style="list-style-type: none"> ノートに記述させる際、8割以上の児童が根拠を書けるようにする。(ノート記述) |
| 音楽 | <ul style="list-style-type: none"> 歌が好きで楽しんで取り組むが、地声になり、曲に合わせた自然な発声ができない児童がいる。 | <ul style="list-style-type: none"> 様々な楽曲に取り組ませ、曲に合った歌い方の工夫や発声の仕方の確認をする。 | <ul style="list-style-type: none"> 8割以上の児童が、楽曲に合った自然な発声を工夫できるようにする。(演奏の聴取・歌テスト) |
| 図画工作 | <ul style="list-style-type: none"> 集中力が高まり、自分の表現活動によく向き合えている。さらに自分の考えを深められるようにしていきたい。 | <ul style="list-style-type: none"> よりよくするためにどうすればよいか、考えさせる機会をつくり、活動を深められるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> 9割以上の児童が、自分の課題にすすんで取り組み、よりよくしようとしている。(活動の様子)◎ |
| 体育 | <ul style="list-style-type: none"> 体を動かすことが好きな児童が多いが、友達のよい動き見てその動きを試したり友達に助言したりすることが少ない。 器械運動に対して苦手意識がある児童が多い。また、後転を怖いと感じ、自分の身体を支えることが苦手な児童が少数だがいる。 | <ul style="list-style-type: none"> その運動を行う際に必要な知識(行い方)をしっかり説明したり資料を提示したりして「分かる」と「できる」を関連付けて指導していく。 猫ちゃん体操などのコーディネーションントレーニングを取り入れ、体幹の支持や逆さ感覚に慣れさせる。 | <ul style="list-style-type: none"> 適切なめあてを設定し、自分の運動に生かす児童を8割以上にする。 自分の動きには取り入れることができなくても友達の動きの良い点に気付く児童を8割以上にする。(ワークシート、行動観察) 学年末には、全員がマットの上での回転技、跳び箱の回転系や切り返し系の簡単な技ができるようにする。(ワークシート、行動観察) |
| 道徳 特 科 別 の | <ul style="list-style-type: none"> 話し合いの場面では、自分の意見をなかなか発表できないことがあり、発表者が限られてしまうことがある。 | <ul style="list-style-type: none"> 道徳的価値に対する児童の意識調査、日頃の様子を観察、作文等から児童一人一人の道徳性の実態を把握しておく。 | <ul style="list-style-type: none"> 学年末には、8割以上の児童が自分の考えを発言したり、記述できたりするようにする。(ノート、ワークシート、行動観察) |
| 外国語 活動 | <ul style="list-style-type: none"> 外国語を声に出すことに対し、苦手意識のある児童が少数だがいる。 | <ul style="list-style-type: none"> 歌やチャンツを多く取り入れ、外国語に慣れ親しむ活動内容を工夫する。 | <ul style="list-style-type: none"> 学年末には、9割以上の児童が積極的にコミュニケーションがとれるようにする。(行動観察) |
| 間学 習 合 的 な 時 間 | <ul style="list-style-type: none"> 課題に興味関心をもって取り組むことができるが、体験・生活の中から、自分なりの課題を見付け、調べようとする力が弱い。 | <ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて、地域の自然や人材を活用した学習活動の内容と展開を工夫する。 | <ul style="list-style-type: none"> 9割以上の児童が、自分の課題を明確にもち、すすんで調べ学習に取り組む。(活動の様子観察、振り返りカード) |

東久留米市立第三小学校 第五学年

| 教科 | 児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点 | 具体的な授業改善策 | 評価・検証方法、目標値 評価（◎、○、●） |
|------------|---|---|--|
| 国語 | <ul style="list-style-type: none"> 既習の漢字や文法、音読での読みなど定着しておくべき内容に個人差がある。 物語文の登場人物の感情の読み取りや説明文の段落ごとで書いていることを正確に読解できるようにしたい。 | <ul style="list-style-type: none"> 日々のノートづくりやドリルなどの副教材の取り組みを丁寧に見取る。授業の中で変化を付けながら子供がたくさん音読をする機会を与える。 何が書かれているのかをきちんと理解させる。教師は何を聞いているのかを考えさせるのに分かりやすい問いを一つの授業でたくさん準備しておく。 | <ul style="list-style-type: none"> ◎9割以上の児童が、日々の授業でやるべき課題に責任をもって取り組めるようにする。（ノート・ドリル） ○8割以上の児童が読解力を身に付け、問題で聞かれている内容を正確に読み取れるようにする。（ワークテスト・プリント・教師からの発問） |
| 社会 | <ul style="list-style-type: none"> 与えられた資料から自分の考えをまとめたり、気付いたことを表現したりするのが難しい児童がいる。 深く考えたいと思えるような資料を精選し、児童の学習意欲を高めたい。 | <ul style="list-style-type: none"> 情報を精選しつつ、導入部分で児童の関心を引き付ける資料を与える。 子供の考えた疑問や問いを基に授業をデザインし、主体的に考えてみようと思いたくなる場づくりをする。 | <ul style="list-style-type: none"> ◎8割以上の児童が、資料から読み取れたことを自分の言葉で表現できるようにする。（児童の発言） ◎9割以上の児童が、自分の考えた問いに対してタブレットを用いて問題解決していけるようにする。（タブレット・ノート等の記録） |
| 算数 | <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを伝えることに苦手意識のある児童がいる。 文章問題において題意を的確に読み取りすることが苦手な児童がいる。 | <ul style="list-style-type: none"> 「教室は間違えてもいい場所」とし、恐れず安心して意見を言える場にする。ペアや小グループで意見交換をする時間を設ける。 問題文に印を付けて、問題の構造が分かるように場面を図に表したり、簡単な数字に置き換えて立式について考えたりできるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ◎8割以上の児童が自分の意見を伝えられるようにする。（ノート・発言・活動の観察） ◎8割以上の児童が題意を的確に読み取りできるようにする。（ワークテスト・ノート・プリント） |
| 理科 | <ul style="list-style-type: none"> 観察や実験に進んで取り組むが、実験計画を立てることや、予想や考察の場面で、自分の考えを表現することが苦手な児童がいる。 | <ul style="list-style-type: none"> 書き方の例を示したり、よく書けている児童に発表させたりしながら、繰り返し指導していく。また、実験の条件を整えることや自分の考えをもつことが見通しをもつことに繋がることを、繰り返し指導する。 | <ul style="list-style-type: none"> ◎実験の際、変える条件、変えない条件を8割の児童が正しく書けるようにする。（ノート記録） ○ノートを時間ごとに回収し、8割以上の児童が、予想や考察の場面で自分の考えを書けるようにする。（ノート記録） |
| 音楽 | <ul style="list-style-type: none"> 合唱や合奏では、ハーモニーを意識できず、独りよがりの表現になってしまう児童がいる。 | <ul style="list-style-type: none"> 自分以外の旋律を意識できるように、主旋律を意識して少人数で重ねる活動や、友達の演奏を聴く活動に取り組む。 | <ul style="list-style-type: none"> ◎9割以上の児童が、ハーモニーを意識した演奏ができるようにする。（演奏の聴取・ワークシート） |
| 図画工作 | <ul style="list-style-type: none"> 教師の指導をきちんと理解しながら活動できている児童が多い。 自分の用具を繰り返し表現活動に使っていくことで、自分の用具に慣れ、より自分の思い通りに用具を扱えるようにと日ごろから指導しているが、忘れ物が多く、いつまでも自身 | <ul style="list-style-type: none"> 忘れ物をした時にどうすれば良いか、考えられるように指導していく。 | <ul style="list-style-type: none"> ◎9割以上の児童が、忘れ物をせずに活動に参加できるようにする。（活動の様子） ○忘れ物をした児童の9割以上が、忘れ物をしても、自分なりに学習の仕方を考えて活動に参加できるようにする。（活動の様子） |
| 家庭 | <ul style="list-style-type: none"> 裁縫における、基礎・基本の定着に課題がある。 | <ul style="list-style-type: none"> 授業開始時に、基礎的な縫い方を短時間行う活動を繰り返す。 | <ul style="list-style-type: none"> ◎8割以上の児童が、日常生活に必要な基礎的な知識、技能を身に付け、実践的な態度を養う。（ノート、児童の振り返り） |
| 体育 | <ul style="list-style-type: none"> 適切なめあてが設定できなかったり、友達の動きを見て自分の動きに生かそうとしたりすることが苦手な児童がいる | <ul style="list-style-type: none"> 教師が良い動きができている児童を見付けてモデル提示することを心がける。 学習ノートやカードに感想を書かせる視点を与えながら、良い動きを児童同士で見付けられるように指導する。 | <ul style="list-style-type: none"> ◎適切なめあてを設定できる児童を8割以上にする。（行動観察、カード分析） ○友達の動きを見て、よい動きやもっとよくするにはどうしたらよいかなどに気付く児童を8割以上にする。（行動観察、カード分析） |
| 道徳別の教科 | <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを伝えられない児童がいる。 教材から離れ、ねらいとする価値について振り返るときに、自分のこととして捉えられないことがある。 | <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを書いてはっきりと捉える時間や少人数で話し合う時間を設定する。 授業の導入で自分自身を見つめたり、単元の終わりで自分自身を振り返ったりする学習展開を積み重ねていく。 | <ul style="list-style-type: none"> ◎9割以上の児童が自分の考えを表現できるようにする。（ワークシート、話し合いの様子） ◎9割以上の児童が、ねらいとする価値について自分のこととして振り返ることができるようにする。（ワークシート、発言） |
| 外国語 | <ul style="list-style-type: none"> 間違えを恐れ、コミュニケーションをとる場面で消極的になってしまう児童がいる。 アルファベットや英文を正しく書くことが定着していない。 | <ul style="list-style-type: none"> 新しい語彙や表現を学習する際は、インプットを十分に行い、安心して活動できるようにする。 歌やチャンツ、ゲームなどを通して、必要な語彙や表現が楽しく身に付いていくようにする。 文字の形や英文を書くときの約束事を理解させ、児童が書いたものは毎回チェックする。 | <ul style="list-style-type: none"> ◎9割以上の児童が基本的な表現を使って、必要なコミュニケーションがとれるようにする。（発言、行動観察） ◎8割以上の児童がアルファベットや簡単な英文を書くことができるようにする。（振り返りカード） |
| 総合的 時間学 | <ul style="list-style-type: none"> 最適な調べ方法を選んで、様々な情報の中から、必要な情報を選択・整理・分析し、まとめられるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> インターネット、書籍、インタビュー等それぞれの調べ方のよさを理解させる。 情報の整理の仕方を指導し、そのためのワークシートやカードを活用できるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ◎8割以上の児童が、主体的に情報収集手段を選択して、必要な情報を選択・整理してまとめることができるようにする。（ワークシート、活動の観察） |

東久留米市立第三小学校 第六学年

| 教科 | 児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点 | 具体的な授業改善策 | 評価・検証方法、目標値 評価(◎、○、●) |
|-----------|---|--|--|
| 国語 | <ul style="list-style-type: none"> ・新出漢字や既習の漢字を読み書きすることや、それらを日常的に文章で活用することに課題が見られる児童がいる。 ・書きたいことの中心が伝わるように構成を考えながら、段落を意識しながら文章を書いたり、原稿用紙に正しく記述したりすることが難しい児童がいる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・習熟のための定期的な漢字学習を設定し、ミニテストで児童が自身の課題に気付けるようし、反復学習に取り組ませる。 ・漢字を用いて文章を書くように日常から指導する。 ・段落の意味や用い方、原稿用紙の使い方について、作文指導の際に改めて指導し、児童が復習できるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ◎8割以上の児童が漢字テストで8割以上正答できるようにする。(テスト) ○卒業文集制作において、9割以上の児童が、構成を考えながら書きたいことの中心が分かるように文章を書き、それを正しく原稿用紙に記述できるようにする。(卒業文集) |
| 社会 | <ul style="list-style-type: none"> ・資料から必要な情報を適切に読み取ることが難しい児童がいる。 ・読み取ったことを基に社会的事象の意味や事象の関連について、更に深く考えられるようにしたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・資料とそれに関連する教科書等の記述とを合わせて取り扱い、示されている情報について児童が適切に読み取れるように指導する。 ・社会的事象について自分事として捉え、考えをもたせる学習を工夫して行う。また、それぞれの意見を交流し比較検証する中で、考えを深めていけるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ◎8割以上の児童が資料から情報を適切に読み取り、正しく課題解決できるようにする。(ノートの記述、発言、テスト) ○単元の終末で、学習した内容を基にししながら社会的事象やその解決に向けての自分の考えを書き、友達と共有する。(ノートの記述、話し合い) |
| 算数 | <ul style="list-style-type: none"> ・筋道を立てて考えたり、考えたことを相手に伝わるように説明したりすることを苦手とする児童がいる。 ・文章問題において題意を的確に読み取りすることが苦手な児童がいる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を想起させ、課題解決の見通しをもたせるようにする。自分の考えをペアやグループ、集団解決の場で説明し合うようにする。 ・問題文に印を付けるなど、問題の構造が分かるように工夫し、場面を図に表したり、簡単な数字に置き換えて立式について考えたりできるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ◎8割以上の児童が自分の考えをノートに書き、相手に伝わるように考えを説明することができるようにする。(ノート・発言) ◎8割以上の児童が題意を的確に読み取りできるようにする。(ワークテスト・ノート・プリント) |
| 理科 | <ul style="list-style-type: none"> ・観察・実験の結果から、結論を導く考察の場面で、単に実験結果を言葉で表すだけでなく、自分の考えを表現できない児童がいる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・よく書けている児童に発表させたり、グループでの意見交流などを入れたりしながら、繰り返し指導していく。問題を振り返り、何を確かめるための観察や実験かを、もう一度振り返らせ、より妥当な考えを導き出せるように指導する。 | <ul style="list-style-type: none"> ◎思考・表現の問題で正答率8割を達成できるようにする。(ワークテスト) ◎8割以上の児童がノートに考察場面で、妥当な自分の考えを表現できるようにする。(ノート記述) |
| 音楽 | <ul style="list-style-type: none"> ・技能の習得は早いですが、楽曲をどう表現したいか思いや意図をもって取り組むことが苦手な児童がいる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・様々な音楽の鑑賞を通して、音楽表現の幅を広げたり、音楽を構造的に聴く活動をする。 | <ul style="list-style-type: none"> ◎8割以上の児童が、思いや意図をもって音楽表現しようとする。(演奏の聴取・ワークシート) |
| 図画工作 | <ul style="list-style-type: none"> ・イメージしやすい活動、単純な活動では比較的意欲を出すすが、少し複雑になってくると、途端に意欲をなくし、授業に直接関係ない行動をとる児童がいる。 ・友達とアイデアを出し合ったり、助け合っついたり、協力して準備、片付けをしているという意識が低く、自分のことだけを優先している児童がいる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・なるべくイメージしやすい活動を設定するようし、まずは意欲的に取り組めるようにしていく。その中で、各自で頑張りたいことを深めていけるように、指導する。 ・皆と一緒に学習することで、学習の内容がより深められるということを認識できるように、繰り返し声掛けしていく。 | <ul style="list-style-type: none"> ◎9割以上の児童が、意欲的に活動しようとしている。(活動の様子・作品・振り返り) ◎9割以上の児童が、進んで学習を深められるよう、自ら考えて行動することができる。(活動の様子) |
| 家庭 | <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活に必要な、裁縫の基本的な知識・技能について、個人差が大きく、課題がある児童が多い。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ミシンの作成や手縫いをする時間を積極的に取り入れて、できるだけ裁縫をする機会を設ける。 ・ICT等を活用しながら実践をして知識・技能を習得していく。 | <ul style="list-style-type: none"> ◎8割以上の児童が、裁縫の知識を基に技能を習得できるようにする(製作や学習プリントの確認・テスト) |
| 体育 | <ul style="list-style-type: none"> ・自己やグループの運動の課題を見付け、その解決のための方法や活動を工夫すること。 ・自己や学習グループの友達に、良い動きや作戦など考えたことを、他者に伝えること。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習カード、掲示物、ICT機器などを活用して、動きのポイントと自己や仲間の動きを照らし合わせて課題を見付ける活動を取り入れる。 ・グループ学習や、モデル指導を用いて、課題解決型の学習展開を行い、動きのポイントなど気付いたことを言葉で表現したり、友達に伝えたりする活動を積極的に取り入れる。 | <ul style="list-style-type: none"> ◎8割以上の児童が自分の課題を見付け、解決のための工夫ができるようにする。(学習カード、活動の様子) ◎8割以上の児童が学習グループの友達に、よい動きや作戦など考えたことを伝えることができるようにする。(学習カード、活動の様子) |
| 道徳的教科 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習を通した自己の考えの広がりや深まりの実感に基づき、自己や他者を見つめ、自己や他者の生き方を考えること。 | <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の学習プリントを活用し、書く場面を必ず設定する。 ・終末では、教材で扱った道徳的価値について、自分自身の生活を振り返り、自己や他者の生き方について考え、表現する学習活動を継続して行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ◎8割以上の児童が、自己や他者を見つめ、考えたことを表現できるようにする。(プリント) |
| 外国語 | <ul style="list-style-type: none"> ・主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとすること。 ・学習した単語やセンテンスを音声や文字で正確に表現すること。 | <ul style="list-style-type: none"> ・必然性のある場面設定で、ジェスチャーを交えながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話す活動を何度も取り入れる。 ・児童が音声を獲得できるよう、たくさん繰り返し聞かせ、リピートする活動を毎回取り入れる。また、毎時間ライティングタイムを取り入れ、書くことにも慣れさせていく。 | <ul style="list-style-type: none"> ◎8割以上の児童が、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図れるようにする。(活動の様子) ◎8割以上の児童が、既習の単語やセンテンスを音声や文字で正確に表現できるようにする。(活動の様子、プリント) |
| 間総合的な学習の時 | <ul style="list-style-type: none"> ・様々な情報の中から、自身の表現したいことに基づいた情報を整理・分析して、表現することができるようにすること。 | <ul style="list-style-type: none"> ・調べたことを発表する場を設け、相手意識をもたせてまとめたり表現したりする活動を取り入れる。 ・国語の授業と教科横断的に取り組み、表現の仕方について、よく考えてから資料の作成を行っていくように指導する。 | <ul style="list-style-type: none"> ◎8割以上の児童が、様々な情報の中から、自身の表現したいことに基づいた情報を整理・分析して、表現することができるようにする。(作品) |